



# ダイバーシティ 就労促進の経済 効果試算

2021年2月3日

WORK! DIVERSITY プロジェクト

2020年度「経済・財政・社会保障収支・労働需給バランス」検討部会  
本資料の作成 酒光一章

# 経済効果試算について

## 当初の作業目的

労働力不足の中、働きづらさを抱えている人たちの就労の促進は、本人の厚生の向上のみならず、経済・財政・社会保障・労働需給バランス等にプラスの効果があるのではないか

このためダイバーシティ就労支援の効果について、モデル事業の効果分析を行うことで把握を試みる

## 新型コロナ感染拡大の影響

経済に大きな影響があり労働力需給も緩和

2020年度のモデル事業の実施はなくなり、実施は2021年度以降に

## 今回の推計

当初の予定では、①まず雇用効果を推定し、②雇用効果をもとに経済効果を推定することとしていた

雇用効果の推定は困難となったため、今年度は、一定の雇用効果を仮定したうえで経済効果を推計することとする（準備的試算）

推計の基本的考え方は2019年度報告の4.による

# 経済効果試算の主な考え方

- 雇用数
  - 2019年度報告就労増加期待数 270万人 とする
  - フルタイム雇用、パートタイム雇用、中間就労がそれぞれ1/3（仮置き）
  - そのうち各半数が障害者であると仮定
- 経済効果
  - 雇用数 × 所得 / 労働分配率
  - 就業者の賃金
    - フルタイム、パートタイムは賃金センサス第1十分位
    - 中間就労はA型事業所の平均賃金
  - 労働分配率
    - 法人企業統計
- 乗数効果
  - 要検討

# 財政・社会保障収支への効果

- 雇用効果、経済効果を前提
- インフローの増加
  - 税、社会保険料の増
- アウトフローの減少
  - 生活保護費の減少
- 要検討事項（今回は推計していない）
  - 社会保険の加入による将来的な年金等の給付の増
  - 就労実現による福祉的支出の減

# 経済効果 まとめ

	単位	第1十 分位			中間就労 (A型)	最低賃金 (参考)
		一般労働者	パート労働者	第1十 分位		
a 年間賃金	万円/人	239	93	92		150
b 労働分配率		0.673	0.673	1		0.673
c 経済効果(付加価値) (= a/b)	万円/人	355	138	92		224
d 乗数		2.331	2.331	2.331		2.331
e 乗数効果を考慮した経済効果 (= c*d)	万円/人	828	321	215		521
f 雇用增加数 (就業増加期待数)	万人	90	90	90		
g 経済効果(乗数効果を考えない場合) (=c*f)	兆円	3.2	1.2	0.8		
			5.3			

# 財政・社会保障収支への効果まとめ

		合計	第1十分位 フル・障害者以外	第1十分位 フル・障害者	第1十分位 パート・障害者以外	第1十分位 パート・障害者	中間就労 者
就労増加見込	万人	270	45	45	45	45	90
税・社会保険料のインフローの 増加額	兆円	1.0	0.60	0.14	0.21	0.02	0.01
生活保護費アウトフローの減 少額	兆円	2.3					
財政効果	兆円	3.3					

# 検討課題

- 各種仮定の妥当性
- 乗数効果の取り扱い
- 生活保護からの脱却見込
- その他推計すべき事項

推計根拠等

# 雇用

- 2019年度バランス部会報告
- 積上げ方式
- 就労増加期待数 270万人をベース
- 仮置きとして、フルタイム（一般）、パートタイム、中間就労が各1/3とする

類型	総数	うち無業者	うち就業増加期待数
障害者	403	255	128
難病患者	47	18	8
糖尿病患者	186	49	10
がん患者	49	20	8
エイズ/HIV患者数	2.0	0.5	0.3
高次脳機能障害者	8.0	4.4	1.9
若年性認知症患者	3.8	3.4	2.4
ギャンブル依存症	56		
薬物使用者(生涯経験あり)	216		
アルコール依存症	43		
LGBT等	235		
社会的養護施設退所者	11		
刑務所出所者等	30	12	9
ニート(15~34歳)	53	53	24
不本意フリーター(15~34歳)	20	0	0
就職氷河期世代(支援対象者)	125	75	52
広義引きこもり	54	41	22
ホームレス	0.3	0.3	0.1
ネットカフェ難民	0.5	0.2	0.1
貧困母子家庭	36	8	8
貧困父子家庭	1.8	0.4	0.4
生活保護世帯(その他の世帯)	25	16	16
総数（重複調整後）	1,518	515	269
高齢者（65~69歳）	946	505	178
総数（高齢者を含む）	2,464	1,020	447

# 賃金

## 一般労働者の年間収入（第1十分位）

出所：厚生労働省「賃金構造基本調査」（2019年）

	一般労働者平均(万円)					第1十分位(万円)	
	所定内 給与	きまつ て支給 する給 与	特別給与	年間収入 入/所 定内給 与	年間収入 所定内 給与	年間収入 所定内 給与	
						A	B
男女計	33.80	30.77	95.09	464.33	13.74	17.40	239
男	37.49	33.80	111.09	516.69	13.78	19.04	262
女	26.90	25.10	65.21	366.41	13.62	15.81	215

## 短時間労働の年間収入（第1十分位）

出所：厚生労働省「賃金構造基本調査」（2019年）

	産業計・規模計		第1十分位			
	実労働日数 【日】	1日当たり所 定内実労働 時間数【時 間】	時間給 (円)	年間収入推 計値(万円)		
			B	C	A	D1 = $A*B*C$
男女計	17	5.3	857	93		
男	16	5.4	866	90		
女	17.4	5.2	854	93		

## 中間就労（A型利用者賃金）

出所：厚生労働省「平成30年工賃（賃金）の実績」

月間（円）	76887
年間(万円)	92

月間×12

## （参考）最低賃金での年収(2019)

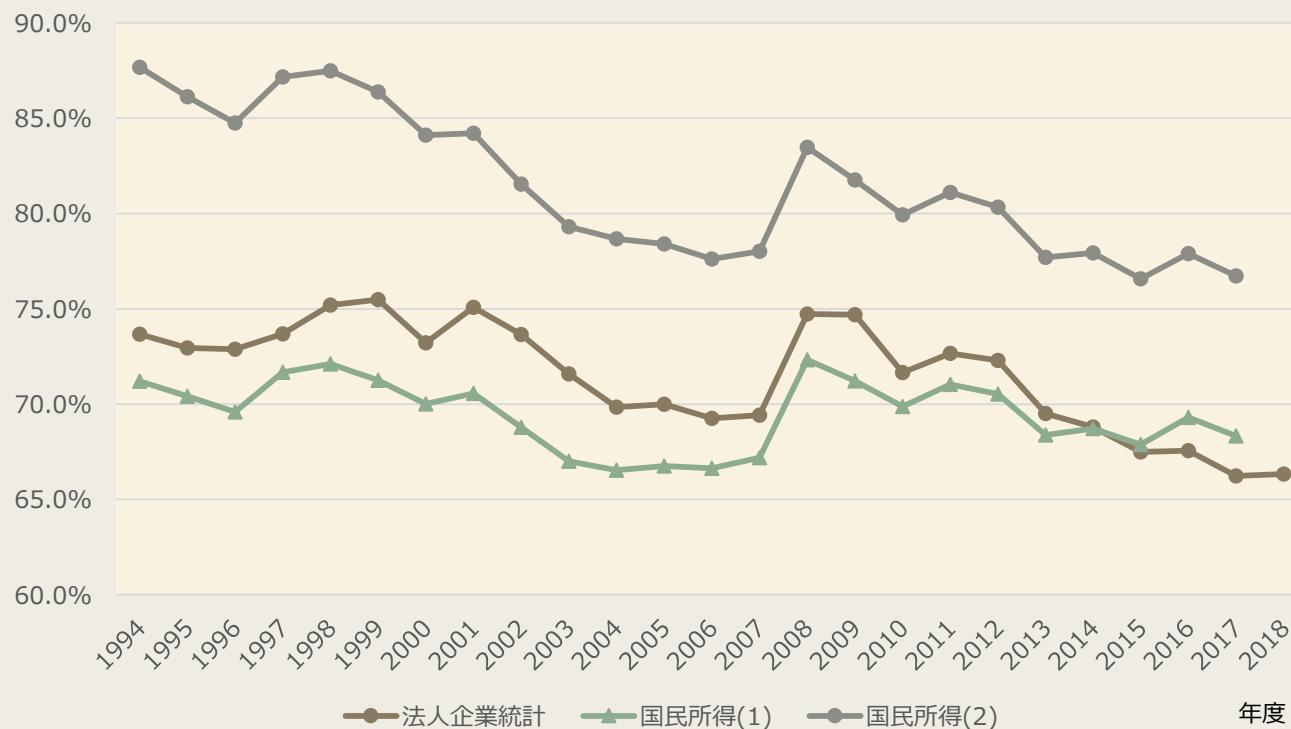
全国加重平均（円/時）	901	A
労働時間（時間/月）	139.1	B（毎勤）
推定年収(万円)	150	C=A*B*12

# 労働分配率

法人企業統計  
国民所得(1)  
国民所得(2)  
者 )

労働分配率 = 人件費 / 付加価値額  
労働分配率 = 雇用者報酬 / 国民所得  
労働分配率 = (雇用者報酬 / 雇用者) / (国民所得 / 就業者)

労働分配率比較



法人企業統計	2013~17	.679
法人企業統計	2014~18	.673
国民所得(1)	2013~17	.685
国民所得(2)	2013~17	.774

# 乗数効果

## 消費乗数

家計調査、勤労者世帯					
時間軸 年次)	実収入 【円】	消費支出 【円】	可処分所得 【円】	可処分所得 比率 (= 1-t)	消費性向 (c)
	Y	C	Yd	Yd / Y	C / Yd
2015年	469,200	276,567	381,193	0.812	0.726
2016年	461,577	268,289	376,576	0.816	0.712
2017年	469,722	271,136	382,434	0.814	0.709
2018年	492,594	275,706	400,964	0.814	0.688
2019年	512,534	280,531	416,980	0.814	0.673
2015～2019				0.814	0.701
消費乗数 = $1/(1-(1-t)*c)$				2.331	

## 投資乗数等

	実質公共投資	名目公共投資	所得税減税	法人税減税
	実質GDP	名目GDP	名目GDP	名目GDP
1年目	1.12	1.13	0.22	0.41
2年目	1.09	1.30	0.27	0.90
3年目	1.02	1.47	0.36	1.00

資料出所 丸山雅章ほか「短期日本経済マクロ計量モデル(2018年版)の構造と乗数分析」ESRI Research Note No.41, 内閣府, 2018年9月

(注) それぞれ名目または実質GDPの1%の規模で継続的に拡大した場合の名目または実質GDPへの影響 (%)。

# 税

(万円)

	第1十分位				中間就労
	一般労働者	一般労働者 障害者	パート	パート 障害者	
年間賃金	355	355	138	138	92
所得税					
所得控除	115	115	55	55	
基礎控除	48	48	48	48	
障害者控除		27		27	
課税所得	193	166	35	8	
所得税率	0.05	0.05	0.05	0.05	
<b>所得税額</b>	<b>10</b>	<b>8</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
住民税					
基礎控除	33	33	33	33	
障害者控除		26		26	
課税標準	208	182	50	24	
所得割額(10%)	21	18	5	2	
障害者控除の差額		1		1	
基礎控除の差額	5	5	5	5	
控除額の差の合計	5	6	5	6	
調整控除額	0	0	0	0	
所得割額（調整控除後）	21	18	5	2	
均等割額	1	1	1	1	
<b>住民税額</b>	<b>21</b>	<b>18</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>0</b>

# 社会保険料（事業主負担含む）

(万円)

	第1 十分位				中間就労 障害者
	一般労働者	一般労働者 障害者	パート	パート 障害者	
社会保険料					
保険料率（年金・健康保険・介護保険）※1	0.2752	※2	0.2752	※2	※2
<b>保険料（全額）</b>	<b>98</b>	<b>0</b>	<b>38</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
労働保険					
労災保険料率（平均）	0.0045	0.0045	0.0045	0.0045	0.0045
雇用保険料率	0.009	0.009	0.009	0.009	0.009
<b>労働保険料</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
<b>税・社会保険料（事業主負担含む）</b>	<b>133</b>	<b>31</b>	<b>47</b>	<b>5</b>	<b>1</b>
就労増加見込数（万人）	45	45	45	45	90
<b>税・社会保険料インフロー総額(兆円)</b>	<b>0.60</b>	<b>0.14</b>	<b>0.21</b>	<b>0.02</b>	<b>0.01</b>
<b>合計</b>	<b>1.0</b>				

※1 健康保険は2019年平均全国保険料率  
※2 社会保険料の法定免除、被扶養扱いと仮定

# 生活保護

2018年

生活保護事業費	億円	36,062	A
うち医療費扶助	億円	17,816	B
被保護人員	万人	210	C
<b>一人当たり生活保護費</b>	<b>万円</b>	<b>172</b>	<b>D =A/C</b>
生活保護被保護人員の減少数見込 ※	万人	135	E
生活保護アウトフロー減少額見込	兆円	2.3	F = D*E

※ 就労増加数の  
1/2が生活保護から  
脱却したと仮定